

羅針盤



2017 年 8 月 23 日(水) 第 17 号

人生とは自分探しではない。
自分を創造することだ。
(ジョージ・バーナード・ショー、
アイルランド出身の劇作家)

大人って、どんな人？

～『16 歳のハローワーク』発行に寄せて～

生徒の皆さんのお父さんやお母さんは「保護者」とも呼ばれます。皆さんが「成人」になると「親」と呼ばれても、「保護者」とは普通は呼ばれません。皆さんは、「親」である「大人」に保護されているという意味で「子ども」と呼ばれます。

一方、皆さんは見た目は「大人」と変わらないくらいに成長しているので、「身体や心は大人だ」などと表現されることもありますね。なんだかメンドクサイですね。大人になるって、どんなことなのだろう。二十歳になれば自動的に「大人」になるのだろうか？ 年齢でも、背格好でもない「大人」の条件。私は最低 3 つあると考えているが、今回はその 1 つについて書いてみたい。

野菜を栽培する人がいる。家畜を育てる人がいる。それらを市場で品定めする人がいて、お店に運ぶ人がいて、販売する人がいて、料理する人がいて、食べて生きている私たちがいる。誰かが早朝からシステムを点検、駅を掃除し、列車を走らせ、安全に君たちの通学を可能にしている。私たちの生活は、想像できないほど多くの人々に支えられている。社会をどこかで誠実に支えている人、そういう人が「大人」と呼ばれるのではないだろうか。社会を支える方法の一つが仕事、つまり働くということだろう。いわゆる「職業」だけでなく、ボランティアや NGO などの社会活動で社会を支えるということもあるだろう。

では、君たちは社会を、どこで、どのように支えるのか。それを考えるために、また支える力を付けるために学んでいるのだと思う。

『16 歳のハローワーク』が完成しました。皆さんが、「働くということ」について考える上で、とても参考になる様々な言葉が書かれています。ぜひ熟読し、深く考えてください。

ご協力いただいた 56 名の保護者も皆さんには、心から感謝申し上げます。もし、ある程度の数が集まれば『16 歳のハローワーク II』の発行も考えたいと思っています。学校のホームページの「1 学年のページ」にアンケート用紙の書式がありますので、よろしければご提出ください。(学年主任：慶徳)



◎「8 月のことば」について

今回は、ジョージ・バーナード・ショー (1856-1950) の言葉を紹介します。彼は文学者・劇作家としてノーベル文学賞を受賞しました(1925)。また、映画の分野ではアカデミー賞も受賞しています。ミュージカル「マイ・フェア・レディ」の原作も彼の作品です。

8月	曜日	行事等	朝学習
22日	火	全校集会、賞状伝達、課題テスト	
23日	水		国語
24日	木		総合
25日	金		数学
26日	土	(週末課題なし、数学は通常通り)	
27日	日		
28日	月	(40分授業)	数学
29日	火		英語
30日	水		国語
31日	木	考查一週間前(部活等制限)	考查に向けて
9月1日	金		
2日	土	(週末課題なし、数学は通常通り)	
3日	日		
4日	月		
5日	火		考查に向けて
6日	水	「防災講話・演習」(総合の時間)	
7日	木	前期末考查①(～9/12)	考查準備
8日	金	前期末考查②	
9日	土	(週末課題なし)	
10日	日		

※夏休みで生活リズムが崩れたままの人はいませんか。「万病のもと」ですよ。崩れている人は、しっかり整えましょう。前期末考查も近づいていますよ。

※夏休み中に取り組むべき課題が指示されていたと思います。全部提出できていますか？ 今度の試験は期末考查なので前期の“成績”が出されます。そこには、考查の結果(点数)だけではなく、課題の提出状況や朝学習の取り組み状況、単語や単元テストのような小テストの結果も加味されると思います。大丈夫ですか？

原子爆弾が投下される前の広島には、美しい自然がありました。

大好きな人の優しい笑顔、温もりがありました。

一緒に創るはずだった未来がありました。

広島には、当たり前前の日常があったのです。

昭和20年(1945年)、8月6日午前8時15分、広島は焼け野原となりました。

広島を失ったのです。多くの命、多くの夢を、失ったのです。 〈中略〉

未来の人に、戦争の体験は不要です。

しかし、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。

一人ひとりの命の重みを知ること、互いを認めあうこと、まっすぐ世界の人々に届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。

広島の子供の私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます。

8月6日、広島の平和公園では、原爆投下の時間に合わせ式典が開かれる。上の文章は、今年の式典で小学6年生の男子生徒と女子生徒が読み上げた「平和の誓い」の始めと最後の部分です。来年の修学旅行では、皆さんも訪れる場所です。3年前の「誓い」も素敵でした。最後の部分を紹介します。

ある語り部の方は言いました。「小さなことから始めてほしい。」

わたしたちは、もう行動をはじめています。友達を大切に、優しく接しています。

家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。

平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。

平和について考えることで、仲間とつながりました。

わたしたちは、できることから始める勇気をもつことができました。

Welcome to Hiroshima. みなさんをここ広島で待っています。

平和について、これからについて共に語り合い、話し合ひましょう。

たくさんの違う考えが平和への大きな力となることを信じて。